

全国福祉高等学校長会主催
令和5年度 社会福祉・介護福祉検定

3 級 問 題

(5 0 分)

◎ 指示があるまで開かないでください。

注 意 事 項

- 1 解答用紙への受検番号等の記入
解答用紙に、受検番号、学校名、クラス、氏名を記入してください。
- 2 試験問題
問題数は150問です。解答時間は50分です。
- 3 解答方法
 - (1) 各問題について、正しい記述には○。誤っている記述には×を解答欄に記入してください。
 - (2) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。
- 4 その他の注意事項
 - (1) 印刷不良やページが抜けている場合は、手を挙げて試験監督の先生に申し出てください。
 - (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。

I 職務の理解

問題 1	日本介護福祉士会は、専門職としての責務を明らかにするために、行動指針として1995年に日本介護福祉士会倫理綱領を定めている。
問題 2	1995年に社会福祉士及び介護福祉士法が制定され、国家資格として介護福祉士が誕生した。
問題 3	介護福祉士養成カリキュラムは、「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」の3領域であったが、「社会福祉士及び介護福祉士法」の2007年の法改正により、「医療的ケア（喀痰吸引等）」が加わって4領域となった。
問題 4	バイステックの7原則のうち、「受容の原則」とは、利用者が自ら決めることを支えて尊重することをいう。
問題 5	介護福祉士の資格取得方法は、大きく分けて養成施設ルート、福祉系高校ルートの2つがある。

II 介護における尊厳の保持・自立支援

問題 6	1948年に国連総会が採択した世界人権宣言では、「すべての人間は生まれながらにして自由であり、すべての人が平等に扱われなければならない。」と述べられている。
問題 7	自立生活運動（IL運動）は、イギリスで始まった障害者の自立生活運動である。
問題 8	施設における個別ケアを推進する手段としてユニットケアがある。
問題 9	高齢者虐待は、身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待の4種類がある。
問題 10	弱い立場にある人の生命や権利、利益を擁護して代弁することをアドボカシーという。

III 介護の基本

問題 11	支持基底面が広いほど姿勢は安定する。逆に支持基底面が狭いほど床面との摩擦が少なくなり、動かしやすい。
問題 12	介護従事者がこれから何を行うのか、また、これからどうなるのかを説明し、利用者に理解を得るようにすることをフォーマル・サービスという。
問題 13	ADLとは、移乗・移動、食事、更衣、排せつ、入浴などの基本的な動作をいう。
問題 14	急な下り坂での車いす介助は、前向きに進むとスピードが出て危険なため、後ろ向きで一步一步ゆっくり下りる。
問題 15	むせを少なくするための食事の支援では、義歯の調整も含まれる。
問題 16	片麻痺がある場合、ポータブルトイレは利用者の患側（寝た状態での患側）の足下に準備し、できる限り自力で排せつ動作が行える環境をつくる。
問題 17	片麻痺がある利用者の場合は、患側に負担をかけずに衣類の着脱ができるように、脱患着健が原則となる。
問題 18	清拭とは、入浴できない人のからだを拭いて清潔を保つことである。皮膚の汚れを取り除き清潔を保つだけでなく、血液循環も促進する役割がある。
問題 19	介護現場において、リスク要因の抽出や対応策の検討を行うためのツールとして、ヒヤリハット報告書や事故報告書が用いられている。

問題 20	介護現場では、転倒・転落、誤嚥や誤飲、入浴中の溺水などの事故が発生しているが、なかでも誤嚥や誤飲の事故発生割合が高い。
問題 21	インフルエンザ・ウイルスは、生きた細胞でしか増殖できず、湿度と気温が高い環境で活発化する。
問題 22	福祉用具貸与は、介護保険制度の居宅サービスのひとつとして位置づけられている。
問題 23	サービス担当者会議とは、介護支援専門員がケアプラン作成やサービス提供に関して開く会議である。医師などの専門職のみが参加して実施される。
問題 24	要介護認定の認定結果が「要支援1～2」で居宅サービスを希望する場合は、予防給付または総合事業を利用する。
問題 25	介護従事者は、喀痰吸引等の行為について、特に条件なく行うことができる。

IV 介護・福祉サービスの理解と医療との連携

問題 26	からだに必要な3大栄養素は、たんぱく質、炭水化物、ビタミンである。
問題 27	人間の体内の水分量（体液）は、成人で体重の約60%である。
問題 28	拘縮などで関節可動域が制限された場合でも、日常生活に及ぼす影響が比較的少ない四肢の状態のことを基本肢位という。
問題 29	知的障害者の定義は、知的障害者福祉法に明記されている。
問題 30	介護保険制度の最大の目的は、高齢者の介護の問題に対して高齢者の尊厳を損なうことなく社会全体で対応することにある。
問題 31	介護保険制度の運営責任を担う組織（保険者）は、都道府県である。
問題 32	第1号被保険者とは65歳以上の者で、その給付の受給要件は、要介護状態や要支援状態が、初老期における認知症・末期がん・関節リウマチなどの加齢に起因する疾患（特定疾患）による場合である。
問題 33	高齢者の在宅生活を支援する相談機関として、市町村の窓口以外に地域包括支援センターや居宅介護支援事業所が設置されている。
問題 34	高齢者が住み慣れた地域で生活が維持できるよう支援するために設けられた介護保険制度のサービスを地域密着型サービスという。
問題 35	介護老人福祉施設とは、入院による治療などの必要はないが、疾病や心身の障害のために日常生活の自立が困難な要介護高齢者に対し家庭復帰を目指すための施設である。
問題 36	リハビリテーションとは、障害により生活機能が低下し、人間らしく生きることに困難が生じている時に人間らしく生きる権利・尊厳の回復を図ることである。
問題 37	ICFは障害を生活機能（心身機能・身体構造、活動、参加）のなかに位置づけている。
問題 38	個人情報の保護に関する法律は、個人の権利利益を保護することを目的とするものであり、個人情報の利用を制限するためのものでもある。
問題 39	成年後見制度は、法定後見制度と任意後見制度に分けられる。
問題 40	障害者総合支援法に規定された自立支援給付には、介護給付、訓練等給付、相談支援があり、自立支援医療、補装具は地域生活支援事業に含まれる。

問題 41	利用者が不本意な商品購入や契約をしていた場合、契約の内容によっては、クーリング・オフ制度が適応される。
問題 42	2011年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、介護福祉士の業務として喀痰吸引等が新たに位置づけられた。
問題 43	障害者に対する虐待を防ぐため、2013年に「障害者虐待防止法」が制定された。
問題 44	1963年の「老人福祉法」によって、特別養護老人ホームの整備が進められた。
問題 45	介護は、介護福祉士の他、医師や看護師、社会福祉士などの他職種もメンバーとなって、心身の状況に応じた介護を行う。
問題 46	介護医療院は、長期的な医療と介護のニーズを併せ持つ要介護高齢者を対象として、2018年に創設された。
問題 47	障害者総合支援法におけるサービスは、自立支援給付と介護予防給付に大別される。
問題 48	介護保険制度で、ケアマネジメントを行うのは、介護福祉士である。
問題 49	介護保険制度で利用できるサービスは、「居宅サービス」「地域密着型サービス」「施設サービス」の3つである。
問題 50	介護保険の居宅サービスで、「通い」「訪問」「泊まり」を一体的に提供するものを「定期巡回・随時対応型居宅介護看護」という。

V 介護におけるコミュニケーション技術

問題 51	自己覚知とは、自分自身について深く分析し、主観的に自己を理解することである。
問題 52	コミュニケーションでは、手話は言語的コミュニケーションに分類される。
問題 53	受容とは、相手があるがままに受け容れること、受け止めることをいう。
問題 54	「はい」「いいえ」という返答ができるような質問のしかたをオープンクエスションという。
問題 55	何が問題の核心になっているのかを質問によって相手から引き出し、あいまいな部分を明確にすることを明確化という。
問題 56	バイステックの7原則の1つに「秘密保持」がある。
問題 57	集団援助における主な実践原則の中に、制限の原則は含まれていない。
問題 58	高齢者とのコミュニケーション場面では、相手の考えや行動を認める支持的態度と相手の立場に立って理解しようとする共感的態度が必要となる。
問題 59	聴覚障害のある人とコミュニケーションをとる場合、補聴器を使っている方ならマスクを外す必要はない。
問題 60	認知症の人との具体的なコミュニケーションの方法として、静かな場所で落ち着いてゆっくり話をするのがあげられる。
問題 61	ピアジェは、幼児期までの間にパーソナリティの基礎がつけられるとし、それぞれの時期にどれだけ欲求が満たされるかで性格が異なってくるかを考えた。

VI 老化の理解

問題 62	ハヴィガーストは、「それぞれの段階に応じて課せられた課題を達成していかなければならない」と考え、その課題のことを発達課題と呼んだ。
問題 63	エイジズムは、レイシズム、セクシズムに続く第三の重大な差別と考えられている。
問題 64	防衛力とは、生物が内部・外部環境の変化に合わせて自己調整し、常に体の安定を保とうとするものである。
問題 65	予備力とは、からだのなかに蓄えられているゆとりの力である。
問題 66	WHO（世界保健機関）では60歳以上を高齢者としている。
問題 67	高齢期にうまく適応した生き方をサクセスフル・エイジングという。
問題 68	老年期に発症する特徴的な症状や疾病をまとめて老年症候群という。
問題 69	日本は、平均寿命が延びてきている一方で、健康寿命は短くなっている。
問題 70	ロコモティブシンドロームとは、日本老年医学会が2014年に提唱した概念で「虚弱」のことである。

VII 認知症の理解

問題 71	1980年代末、イギリスのトム・キッドウッドはパーソン・センタード・ケアを提唱した。
問題 72	認知症の人を6時間以上観察し、5分ごとに本人の状態を記録する。その結果を確認・評価してケアの改善方法を検討する手法を、ユマニチュードという。
問題 73	2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、約300万人が認知症になるといわれている。
問題 74	厚生労働省「国民生活基礎調査（2019年）」によると、65歳以上の高齢者のうち、介護が必要になった主な原因の総数で最も割合が高い疾患は認知症である。
問題 75	認知症の症状である中核症状とは、認知症に共通の症状ではあるが、個人間差・個人内差があることが特徴である。
問題 76	認知症の原因となる病気は、アルツハイマー型認知症が最も多く、約70%を占めている。
問題 77	アルツハイマー型認知症の原因は、アミロイドβやリン酸化タウという異常なタンパク質が脳にたまり細胞死、神経変性を起こすことと考えられている。
問題 78	脳血管性認知症は、色彩豊かな幻視が出現することが主症状である。
問題 79	レビー小体型認知症は、障害を受けていない部分の認知機能は保たれているため、まだら認知症とも呼ばれる。
問題 80	認知機能障害はあるものの、日常生活は自立している状態を軽度認知障害（MCI）という。
問題 81	認知症の非薬物アプローチにおけるリアリティ・オリエンテーションとは、高齢者の過去の人生の歴史に焦点を当てて、傾聴することを通じて、心をささえる支援方法である。

問題 82	BPSD（行動・心理症状）は、認知症の初期段階では起こらない症状である。
問題 83	認知症ケアでは、相手の状況、ものの見方をその人の立場に立って推測する認知的共感の力が必要である。
問題 84	認知症の人の行動や言葉の背景を読み解いていくツールとして、ひもときシートが活用できる。
問題 85	認知症ケアパスとは、「聞く」「集める」「見つける」の3ステップから、認知症の症状を「人」として理解し、「理由を考えるケア」のことである。

VIII 障害の理解

問題 86	WHO（世界保健機関）は、1980年にICF（国際生活機能分類）を発表し、2001年にICFを改訂したICIDH（国際障害分類）を採択した。
問題 87	日本において障害者に対する施策として最初に制定された法律は、1949年の知的障害者福祉法である。
問題 88	2013年に施行された障害者総合支援法では、第4条の障害者の定義に難病等が追加された。
問題 89	脳性麻痺とは、胎児または乳児の脳にある非進行性の病変によって、運動や姿勢に異常が現れる状態で、症状により痙直型、アトローゼ型などがある。
問題 90	言語機能障害とは、構音機能や音声障害、失語症により、発音や発声言語の理解ができない障害である。
問題 91	話すことや聞くことをサポートする専門職としては、言語療法士（ST）がいる。
問題 92	2010年から内部障害に肝臓機能障害が追加された。
問題 93	知的障害は、知的機能の障害が発達期（おおむね15歳まで）にあらわれたものをいう。
問題 94	障害児は児童福祉法により、身体、知的、精神に障害のある児童とされ、発達障害児や難病などの児童は含まれない。
問題 95	在宅の身体障害者の障害種別で最も多い障害は肢体不自由で、全体の45.0%を占めている。
問題 96	身体障害者福祉法の対象となる内部臓器は、心臓、腎臓、呼吸器、膀胱又は直腸、小腸のみで、肝臓、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害は含まれない。
問題 97	心因性精神障害とは、生活やストレスなどによる心理的影響によって精神的不調をきたすものをいう。
問題 98	高次脳機能障害でみられる遂行機能障害とは、急に笑う、どなるなどの感情のコントロールができなくなったり、ものごとに固執したりする障害である。
問題 99	障害を受容するまでには、①ショック期、②否認期、③混乱期、④受容期の過程をたどる。
問題 100	ヤングケアラーとは、家族の介護を行う20歳未満の子どもをさしている。

IX こころとからだのしくみと生活支援技術

問題 101	足の爪は、「スクエアオフ」の形に整えると、指先の巧緻性が保たれやすい。
--------	-------------------------------------

問題 102	関節が拘縮してその位置で動かなくなった場合、日常生活に及ぼす影響が比較的少ない四肢の状態を良肢位という。
問題 103	平地での杖歩行において、介護従事者は麻痺側のやや前方に位置する。
問題 104	レム睡眠とは、「深い眠り」であり、ノンレム睡眠とは「浅い眠り」である。
問題 105	Y-G性格検査は、インクのしみでできた左右対称の図版を1枚ずつ提示し、何に見えるかを自由に話してもらうものである。
問題 106	防衛機制について、苦痛な感情や記憶を意識から閉め出し無意識化することを「逃避」という。
問題 107	肝臓は、右側の横隔膜の下側にある約1,200gの臓器で、左葉と右葉に分かれ、左葉のほうが大きい。
問題 108	肺と外の空気を交換し、肺泡と毛細血管の血液の間でガス交換をすることを外呼吸という。
問題 109	心臓に栄養を運ぶ血液は、上行大動脈起始部から分かれる左右の冠状動脈によってもたらされる。
問題 110	人間の欲求を段階的に示したものとして、マズローの欲求3段階説がある。
問題 111	食中毒は、細菌性食中毒とウイルス性食中毒の2種類しかない。
問題 112	身じたくを整えることは、自立支援につながるとともに社会参加を促すことにもなる。
問題 113	巻き爪や白癬による爪の肥厚への支援など、医療行為にかかわる場合は医療職との連携を欠かさないようにする。
問題 114	口腔細菌のコントロール不足によって、歯周病になる可能性が高まるだけでなく、誤嚥性肺炎や糖尿病などの疾患にかかることもある。
問題 115	衣服の着脱において麻痺や関節可動域の狭い側を患側として扱い、脱患着健を原則とする。
問題 116	過度な安静や臥床は、筋力の低下や関節の拘縮、褥瘡など生活不活発病（廃用症候群）を引き起こすことがある。
問題 117	視覚障害のある人の手引き歩行を行う場合、介護従事者は利用者の隣に位置し、利用者と歩調を合わせて歩行する。
問題 118	嚥下機能の低下により、食べ物や唾液など食道に送られるべきものが気管に入り込むことで生じる肺炎を沈下性肺炎という。
問題 119	脱水を疑う症状として、目や口唇が渇いている、尿量が減る、尿の色が濃い、ぼんやりしているなどがある。
問題 120	温浴・微温浴では、交感神経が働き、精神的にも安らぎ、落ち着いた気分になる。
問題 121	女性の陰部を拭く場合、肛門から前に向かって拭く。
問題 122	切迫性尿失禁とは、くしゃみ・咳をしたり、重いものを持ったりした時など、腹圧がかかった時に尿が漏れることをいう。
問題 123	介護従事者が扱うことのできる浣腸は、市販のディスポーザブルグリセリン浣腸器である。この使用の判断と実施は、医師の指示に従うことが必要となる。

問題 124	高齢者は健康であっても、年齢を重ねると睡眠は変化し、不眠の人が増加する。
問題 125	チョークサインとは、気道に異物が詰まった時にみられる、のどをつかんだり、かきむしるような動作のことである。
問題 126	身体障害者福祉法では身体障害者を「別表に掲げる身体上の障害がある20歳以上のものであって、都道府県知事から身体障害者手帳の交付を受けたものをいう」と定義している。
問題 127	バンク・ミケルセンは、「ノーマライゼーションの父」と言われている。
問題 128	厚生労働省の調査（2016年）において、在宅の視覚障害者の総数は31.2万人と言われている。
問題 129	肢体不自由の主な原因として、脊髄損傷、脳性麻痺、脳血管障害があげられる。
問題 130	聴覚障害について、全く聞こえない状態を難聴という。
問題 131	心因性精神障害には、統合失調症や双極性障害などがある。
問題 132	精神障害者保健福祉手帳の等級は、1～3級である。
問題 133	学習障害のある人に知的な遅れはみられない。
問題 134	認知症の原因となる病気は、脳血管性認知症が最も多い。
問題 135	行動型前頭側頭型認知症は、ピック病とも呼ばれる。
問題 136	2012年の高齢人口における認知症有病率は、25%であると推計された。
問題 137	制度改正による認知症対策が進められ、2015年にオレンジプランが策定された。
問題 138	階段を下りる時は、健側の足から下りる。
問題 139	日本国憲法第11条では、生存権を定めている。
問題 140	爪の先端が白濁すると、爪みずむしの可能性がある。
問題 141	キューブラー・ロスの死を受容する5つの過程は、否認、恐怖、取り引き、抑うつ、受容である。
問題 142	高齢になると口渇（のどの渇き）を感じにくくなる。
問題 143	睡眠は、レム睡眠から始まり、ノンレム睡眠に移行する。
問題 144	排泄物は時間がたつとアルカリ性に変化し、弱酸性の皮膚に対しては刺激物となる。
問題 145	やけど（熱傷）は深さと広さで重傷（症）度が異なる。真皮まで損傷している場合、体表面積の30%以上になると重傷（症）であり、治療を急ぐ必要がある。

問題 146	低血糖の場合は、症状がゆっくりと現れるため気づきにくい、のどが乾く、皮膚が乾燥する、倦怠感、尿の回数が増える、傷の治りが遅いなどの場合は注意が必要である。
問題 147	食物を前にした状態から嚥下が終了するまでのプロセスは、認知期（先行期）→準備期（咀嚼期）→咽頭期→口腔期→食道期の順である。
問題 148	加齢に伴い、睡眠時間は長くなる傾向にある。
問題 149	約1日を周期とする生体のリズムのことをサーカディアンリズムという。
問題 150	感染は、病原体によって宿主（人間）に感染症が発生する状態をいい、感染源（病原体）、感染場所、宿主によって成り立つ。